



光受寺通信

R.5年2月1日 発行
発行元 光受寺
https://koujyuji.com/

「よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」。『歎異抄』…真宗聖典 P640

この言葉は親鸞聖人が常に語っていた『歎異抄』に伝えられている言葉です。要約すれば、「この世の中には、うそや、いつわりの言葉ばかりで、まことという言葉はないのです。ただ「念仏」一つが、まことという言葉なのです」と受け止めることができます。

近年はウクライナ戦争をはじめとして、コロナ感染に関わる問題等、社会を揺るがすような事件、事故等が様々に頻発し、その度ごとに、その状況、情報を見聞きしてきました。また縁起担ぎや語呂合わせまでに心惑わせている私たちの人生。「いったい何を信じて生きて行けばよいのだろう」。そんな思いが深まるばかりです。

親鸞聖人は「念仏」一つに生きた人でありました。人生の暗闇の中をさまようように生きた親鸞にとって念仏は、迷いの中に生きる自分の姿を照らし、生きる道筋を指し示してくれた言葉であったのです。

この混迷の世の中であって今、私たちは真実を見つめる眼を見開き、ゆるぎない支えとなるような、力のある言葉に出会っていきたいと思うことです。



梅の美しい季節と
なりました。

境内で春を一番に知らせてくれる梅の花。今年も一月十四日に境内で一番の早咲きの梅が開花しました。
この梅の品種はよくわからないのですが、およそ二十年ほど前に、ご門徒の方からいただいた盆梅を地植えした古木です。およそ四〜五十センチほどの高さですが、毎年見事な花を咲かせてくれます。根元は朽ちて空洞も目立ち、今にも枯れてしまいそうな気もいたしますが、境内の梅の中ではいちばんの元気ものかもしれません。
毎年この梅が咲くころになると、「ご寄付いただいた方の事がしるばれ、今年も元気に咲いています」と、「ご報告申し上げます」のです。
私たち人間もこの花のように老いても、変わらぬ美しい心の花を咲かせ続けていきたいものだと思います。

次回のお知らせ



お寺サロン

お茶とお菓子
もあるよ

令和5年2月16日(木) 午後2時~3時頃まで
光受寺にて (墨俣町寺町211番地)

仏教小晰 (廣専寺 近藤龍謙さん)

浄土真宗ってどんな宗派?
意外と知っている人は少ない?
今更聞けない浄土真宗の基本知識について。
(光受寺 柴間隆文さん)

※都合により内容が変更になる場合があります。

※駐車場は光受寺(第2駐車場)、廣専寺境内、または墨俣観光駐車場をご利用ください。その他の寺院には駐車しないでください。

次回予定

令和5年4月20日(木) 午後1時半~ 廣専寺にて

企画運営:お寺の未来を考える会

次回は光受寺での開催です。多くのご参加いただけたらと思います。お待ちしております。
○参加費無料
○廣専寺、光受寺のご門徒に関わらず、お誘いあわせの上ご参加いただけたらと思います。



机を囲んで和やかに

去る一月十九日(木)廣専寺において、「お寺サロン」が開かれました。参加してくださった方は十二名ほどでしたが、廣専寺若さんのお仏壇のお飾りの仕方や、お給仕の仕方などのお話をもとに、活発に質問や、感想を述べていただき、終始和やかな雰囲気の中で約一時間を過ごしていただきました。
ご門徒同士の交流を通して、より豊かな人生を育んでいただける縁としていただけたらと願っています。

第二回 お寺サロン開かれる。

—お寺の未来を考える会主催—

春季永代経

二月二十一日(春分の日)

午前のみ 法話 住職 予定

「コロナ感染状況がどうなっているのか気になる」と思いますが、いずれにせよ感染による老人の死亡率は高いように思われます。従いまして午前のみのお勤めとさせていただきます。お斎はお持ち帰り用とさせていただきます。ご理解いただきありがとうございます。

※感染状況により変更もございます。改めてご案内申し上げます。

光受寺学習会

今年はいんなじくを学んでいきます。

本年度からは、毎月第3土曜日の午後3時から4時半までと、曜日と時間を変更して開催していきます。と思っております。

内容 ○『歎異抄』に学ぶ。—自由参加。参加費はいりません。—

『歎異抄』って…親鸞滅後、親鸞の教えが異なると理解されていくのを嘆き親鸞から直接教えを受けた門弟の一人、唯円(ゆいえん)が師の教えを改めて明らかにしたいという願いからこの書を生み出されたと言われています。親鸞の思想の確信を知るうえで大切な書物とされています。

今月の掲示板

迷惑をかけずに
生きて行くことが
大切ではない。
迷惑をかけずには
生きられないこと
知ることが大切。

私たちは生きて行く上において、人に限らず何らか「他のもの」対しても迷惑をかけて生きているものなのです。迷惑をかけずに生きることなどというときはしないのです。

最近よくお聞きする言葉ですが、「将来、子や孫には迷惑をかけたくないのよ…」とおっしゃいます。確かに誰しも思うことではありますし、極めて現実的な不安を含んだ言葉でもあります。しかし、終活とか言っていて、ある程度のことにはまではできないにしても、最期だけはごうにもならないものなのです。口頃の人生においても、同じこと。そのことに生きるところに感謝の思いも起こり、お互い様に人生を生きられるのです。

新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていく

— 問い続ける歩みをとまじり —

このころの縄文時代

11回目



こころの散歩



私どもの祖先である縄文人は、一万年におよぶ気の遠くなるような長い年月を生きた人々です。新石器時代に続いて縄文時代は、中期になると高度な意匠を施した土器を焼成するようになり、新潟県十日町の篠山遺跡からは大量の火災土器が発掘されています。狩猟採集の生活ながら高度な文化を築いた人々です。縄文時代は、大変温暖な気候に恵まれ、栗や柿など豊富な果実、それに海や川では酒や鱒など豊かな食料を手に入れることが容易で豊かな生活を営むことができました。

温暖な自然環境のもとで、精神的にも自然への感謝を深め、原始的ながら祭祀のあとも窺うことが出来ます。

梅原先生は、「日本の深層」という書物で、縄文文化は日本の基礎文化と位置づけておられますが、日本の精神文化は、はるかな縄文文化とつながっていることを思うとき、限りない豊かさを思わずにはい折られませぬ。



光受寺御遠忌法要

光受寺学習会 二月十八日(土) 午後3時より

金曜茶話会

毎週金曜日 午後一時半〜二時まで